

## IV. まとめ

### 1. 東館の文化的価値

東館は、DOCOMOMO20にも選定されている建物であり、その価値が世界的に評価されている。今回検討会議でその価値の詳細を改めて検討したところ、非常に高い文化的価値をもっていることを確認できたため、将来に向けて保存すべきである。その価値は、構成要素として、建築的価値（設計意図、空間性等）・社会的価値（場所性等）・歴史的価値（時代的特徴、保存状態等）の3つの要素を持ち、なかでもこの建築が現在も良好な環境と状態で使用されているところに、大きな根拠がある。

文化的価値を支える二つの機能（現役の庁舎としての機能、県民が身近に価値を享受できる「開かれた庁舎」としての機能）が、建築的価値や歴史的価値を尊重する形で保全されるよう、技術的検討が行われるべきである。

### 2. 東館の保存・耐震化に係る基本的な考え方及び留意すべき事項

東館の保存・耐震化策については、近年、技術が急速に進歩し、文化的価値の高い建物や、県庁舎・市庁舎などの耐震化に多く用いられるようになってきている基礎免震構法を軸として、耐震工法の具体的な検討を進めることが望ましい。外観および内部空間の保存率を他の構法に比べて格段と高くすることが可能と考えるからである。あわせて、6階以上のコア部分の耐震補強を併用することも考えられる。

なお、耐震工法等の具体的な検討を進めるに当たっては、耐震化する場合の費用と改築する場合の費用とのコスト比較を行う等、コストの抑制に留意しつつ耐震工法等の精査を行うことが求められる。

このような方向性を前提にした上で、保存・耐震化の検討等の内容については、基本計画・基本設計・詳細設計・施工といった将来的な工程に応じ、継続的に有識者からのアドバイスを得つつ、随時公開することが望ましい。

また、耐震改修への県民の理解を得るため、改修後の利活用のあり方についても積極的に検討を進める必要がある。同時に、文化的価値を広めるための仕組みが模索されるべきである。具体的には、建物の価値、保存・耐震化の方法等あらゆることについて、広く県民が情報を共有できるように、随時、簡単明瞭に説明し、情報発信していく必要がある。